

**「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）」県民説明会 第8学区：館山会場**

- 1 日 時：令和4年8月4日（木曜日）午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 場 所：千葉県南総文化ホール 大会議室
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）」の説明と意見聴取
- 4 参加者：36名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

**意見聴取の概要**

**普通科及び普通系専門学科・コース**

- Q 保育基礎コースが県南にはないが、その学びを受けられる方法はあるか。
- A 保育基礎コースについては最近設置し始めた学科です。本プログラムにおいては、まずは県北の保育士不足に対応するため2校への追加設置を検討したところですが、今後も地域バランスを踏まえて更なる拡充について検討します。未設置の学区においては、県教育委員会が企画する様々な体験事業などでモチベーションを上げていただければと考えます。

**職業系専門学科・コース**

なし

**総合学科**

なし

**社会のニーズに対応した教育**

なし

**全日制高校の適正規模・適正配置**

- Q 統合について、特に千葉県南部の人口減少にどのように対応すると考えてこのプランを策定したのか。
- A 魅力ある高校を作るために様々な学びやコースの設置を検討しています。プランの中では例えば海洋科など特色ある学びにおいて柔軟な生徒募集を検討するとしており、まずは県内遠隔地の生徒が通えるような環境の整備を地元市町村と協力しながら進めていきたいと考えます。
- Q 人口の減少はこの地域においても課題であるが、交通の便が悪い地域を私立高校はバスを走らせ生徒を集めている現状がある。このままだと公立では統合が進み、私立は生徒が増える一方である。公立は適正規模を設けているが一学年十数クラス規模の私立が存在している現状がある。公私比率はどうなっているのか。
- A 募集定員策定の際に公私比率については毎年公私間で協議を行っています。生徒数の減少に伴い県立と同様に私立も募集定員を減らしてほしいと要望しています。また、私学の定員超過については公立からも改善を求めるよう要望しているところです。
- Q バスを出すとか電車運賃について県や市町村が補助金を出すなどの考え方はないのか。
- A 公立高校に通う生徒の通学費用はこれまで自己負担でやってきています。県が補助金を出すこと

については公平性の観点から難しいです。

Q 郡部の中で10組程度は統合したいという話だが、具体的な構想はあるのか。また、地域連携協働校について詳しく教えてほしい。

A プランにおいては今後10年間で県全体で10組程度の統合としています。今回は都市部と郡部に分けて論じており、これからの10年はこれまで統合を進めてきた郡部だけでなく都市部においても生徒数が減少していく見通しです。郡部においてはこれまでの再編により学校が点在している状況にあり、小規模な学校を統合するのではなくどうしたら存続できるかを検討した結果が「地域連携協働校」という考え方であると御理解ください。例えば学校運営協議会等を通じて、地域の方々にも学校の教育、運営に参画していただき、地域で子どもを育てていきたいと考えている。ある程度規模が小さくなってしまうと、例えば部活動で団体競技かできないとか、多様な授業展開ができないといったことも出てきてしまうので、必要に応じて近くの学校を協力校として指定し、授業の配信や、部活動の合同実施などの工夫をしながら、活力ある教育活動を維持していきたいと考えます。

## 全体

Q これまでの再編における成果を県全体に周知していただきたい。

A 新たに導入したコースや学びについて、最初の卒業生が出るタイミングで評価を行っています。県教育委員会のホームページにも掲載されているので御確認いただきたい。教員基礎コースについては、最初に導入した安房高校と千葉女子高校の最初の卒業生がどのくらい教職に就いたか追跡調査を行ったところ、8名が千葉県の教員として正式採用されています。

Q プランの「改革の方向性」で、「生徒が生き生きと学ぶことのできる環境整備」と謳っているが、一人一台タブレットの配付や冷房設置について県負担で設置するような取組は今後進められるのか。

A タブレットについては個人所有ということで県で整備できていない状況ですが、経済的に厳しい子どもには貸与を行うことのできる体制を整えています。また、冷房の整備については普通教室への整備が完了し、現在は管理諸室への整備を進めているところです。特別教室への整備については必要性は認識しており今後の課題と捉えています。

## その他

なし

## 要望・感想

- 安房地区の子どもの数が減少している。この地域の県立高校4校は学科等のバランスが良いが、今後の存続については心配なところである。地域の実情に応じた県立高校の在り方について慎重な協議を進めつつ高校改革を進めてほしい。
- 全県統一の県民説明会を開催してほしい。
- 子どもや保護者が高校を選ぶときには、学びの魅力はもちろん重要な要素の一つである。その周知をこれからもぜひお願いしたい。また、進学等の実績も大きな判断材料となっている。優秀な層が学区外の私立に流れている現状があるのも事実である。
- 私立高校の生徒数の現状について生徒数等のデータをしっかり公表してほしい。私立高校も人口減少に対応すべきである。
- 地域に根差した連携を研究しさらに推進してほしい。

- 適正規模に縛られず、全国の小規模校の取組を研究してほしい。
- パブリックコメントは策定懇談会の委員に配付し審議資料とすべきである。